

電動車椅子サッカーW杯 9日開幕

ネット中継で 強カアシスト

世界七カ国・地域の電動車椅子（いす）サッカー代表チームが覇を競う第一回FIPFAワールドカップ2007（電動車椅子サッカーW杯）が九日から十三日まで、東京で開かれる。重度障害のある選手たちが世界につながる夢を実現しようと開催にこぎつけたこの大会で、金沢市のメンバーが中心となって運営するNPO法人STANDがインターネット中継の大役を任された。メンバーらは「選手たちのプレーに応え、電動車椅子サッカーの妙味を伝えたい」と張り切っている。（報道部・小島哲男）

STANDは二〇〇五年十二月に設立。まだ任意のボランティア団体だった〇三年から毎年秋、名古屋や大阪市で開かれてきた日本電動車椅子サッカー選手権などでネット中継を担ってきた。

きっかけは、金沢市の選手たちの仲間から寄せられた「体が不自由で会場には行けないが、応援したい」という声だった。テレビ

金沢のNPO法人

電動車椅子サッカー 重度の障害者たちのために考案されたスポーツ。1チーム4人制で、バスケットボールコートを使って行う。電動車椅子の先端に取り付けたフットガードや車椅子の側面で、直径約33センチのボールを操る。W杯に出場する日本チームのアドバイザーには元サッカー日本代表監督の岡田武史氏がなっている。



電話機能付きの携帯電話とインターネットを組み合わせた機動的なシステムを考案。モバイルと中継をもじって、メンバーらは「モバチュウ」と名付けた。

「普及活動、応援したい」

今年四月、愛知県大府市で開催されたW杯の日本代表選考会では、選手の仲間やFIPFA関係者からのメッセージも配信し、期間中のアクセスは二千五百を超えた。

W杯に出場するのは日本、米国、フランス、イングランド、ベルギー、ポルトガル、デンマークの七チーム。九日の開会式から三日の決勝戦まで全十二試合、STANDのメンバーと金沢星稜大の学生ボランティアら総勢約三十人が繰り出し、監督、選手のインタビューやベンチ裏りポートも絡めて生中継する。

金沢市のチーム「金沢ベストブラザーズ」に所属する同市平和町の北出加根子さん（金）は「秋田県での全国障害者スポーツ大会に出

場するので観戦に行けないけど、中継を見て日本チームを応援したい」と話す。本番に向けてメンバーは今、こころし統一された国際ルールの勉強をしたり、各国から選手たちへの動画メッセージを募集したりと準備に余念がない。

STANDの伊藤数字子副理事長（金沢市）は「選手の皆さんは、W杯の開催によって競技がより広い世界へと広がるとともに、競技普及活動を通して社会に貢献できることを願っている。わたしたちはネット中継で少しでもそれを応援したい」と意欲を示している。

公式中継ホームページのアドレスは<http://www.i-project.jp/stand/mobachoo/w-cup/>。運営費を確保するため、企業などの支援も求めている。問い合わせはSTAND事務局へ電話076(267)0099へ。



テレビ電話機能付き携帯電話を使い試合の様相を中継したW杯の日本代表選考会＝4月、愛知県大府市で（STAND提供）